青森から

リンゴせん定枝の木灰でハサミのヤニ落とし

高橋真央

平川市で2・8haリンゴを栽培している赤平充孝さんに、9月号の「キレッキレ 農家の刃物」特集からハサミの手入れの記事を見せると、ご自身のやり方を教えてくれました。リンゴせん定枝の木灰を使ったヤニ汚れ落としで、青森県では昔からのやり方です。

まず、木灰を20ℓオイル缶の3分の1まで入れ、あとは缶たっぷりまで水を入れてかき混ぜます。一晩置くと灰が沈殿し、うっすら黄色みがかった上澄みができるので、すくい取ってコーヒードリッパーで濾します。

この上澄み液を汚れたハサミに霧吹きし、15秒ほど置きます。するとヤニが浮いてきて、布で拭きとるとキレイになるそうです。

市販の高いクリーナーを買わずに、身近な材料で手軽に手入れができるので、赤平さんは1年分の上澄み液をストックして使っています。この話を聞いて、そんなに長持ちすることにも驚きました。

千葉から

堆肥畑でナスが大豊作

吉野隆祐

八街市の宮原壮一さんは、15年ものの堆肥の上でナスを栽培しています。堆肥の材料は、木材チップと野菜クズが7対3。野菜クズは、地元の選果場から大型トラックで受け入れるもので、規格外などで廃棄になるサトイモやトマトやニンジンなどいろいろでした。毎回チップと混ぜて大量に山に積み、1カ月ほどしたら元の堆肥と一緒にして切り返し。この繰り返しで、15年間でなんと1万㎥ほどの量になったそうです。できあがった堆肥は、水はけがよく水もちのよい理想的な「土」に変身しました。

さて、この堆肥を広げると、元の畑から約4mも高くなってしまった場所もあるそうです。そのうちの10aほどをウネ立てして、2年前からナスを550本植えつけたところ、1本から200個以上も収穫できて大豊作。連作した今年は10株ほどで半身萎ちょう病が出ましたが、葉が落ちて枝だけになってもわき芽が出てきて収穫できています。

この堆肥畑、地力があるからか、長期収穫のナスに最適でした。来年はピーマンも植える予定です。

広島から

カンキツの傾斜地畑、三脚の前脚を切ってみた

見上太郎

菊本勝之さんの住む呉市豊浜町は、傾斜地でおいしいカンキツをつくる産地です。しかし傾斜がある畑は作業が大変で、踏み台に使う三脚も安定せず危険でした。

そこで菊本さんは、40㎝ほどあった三脚の脚の1本を、半分くらいに切ってみました。短くなった脚を傾斜の上側に置くことで、傾斜地でもうまく安定します。しかし切り口が切りっぱなしだと、体重がかかってどんどん地面にめり込んでしまうので、バーナーで熱して平たく潰した塩ビ管を、切り口部分に水平にボルトで留めました。この三脚を使うようになってから、せん定から摘果、収穫に至るまで、作業がとてもラクになったそうです。

最初は菊本さん一人でこの三脚を使っていたのですが、奥さんに貸したところ、そればかり使うようになったので、もう一つ作りました。カンキツの産地は傾斜地が多いので、メーカーにも販売してほしいよと笑う菊本さんでした。

山形から

根出しモミで直播、やってみた

渡邊紗恵子

鶴岡市の福原富男さんは、飼料米を直播栽培しています。以前はカルパーや鉄コーティングを使っていましたが、面倒なので被覆はやめて、裸のモミをそのまま動散で播くようになりました。

昨年まではハト胸状態のモミを播いていましたが、1月号の「出芽がスムーズ！　根出し種子」の記事を読んで、今年は根出しモミを播いてみたそうです。記事によると、「浸種後にしっかり水を切り、十分な空気があるところで発芽させると、種モミは芽より先に根を出す。これを直播すると出芽が早く、苗立ちがいい」とのこと。

福原さんが作った根出しモミは根がやや伸び過ぎて、モミが絡んだものもありましたが、ほぐして播いたら問題なしでした。苗立ちもよくなった気がしましたが、驚いたのは生育の早さ。近所の農家が出穂したころ、福原さんのイネの穂はもうすっかり揃っていたそうです。

愛媛から

豚の飲み水にえひめＡＩ、豚舎のニオイが軽減

長谷川貴央

伊予農業高校で畜産を担当する岡本繁幸先生は、学校で飼育している豚にえひめＡＩを飲ませて、豚舎のニオイを抑えています。

以前の先生は、えひめＡＩでボカシを作り、エサに混ぜてニオイを抑えていました。しかしその先生が異動してしまうと、ボカシを作る人がいなくなり、豚舎のニオイが元通り……。

そこで岡本先生、えひめＡＩを豚に直接飲ませたところ、同様にニオイが抑えられたそうです。やり方は簡単で、液肥混入機「ドサトロン」にえひめＡＩを入れ、濃度２％になるように飲み水の配管に流すだけ。１日置きで真水と交互に飲ませることで、給水口のフィルターにえひめＡＩが詰まるのを防いでいます。

ニオイはデータ上でも明らかで、豚の糞のアンモニア濃度が大きく減っていたそうです。